

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700121		
法人名	株式会社ユニマットそよ風		
事業所名	天神川ケアセンターそよ風 東ユニット		
所在地	京都市右京区西院西田町61番地		
自己評価作成日	平成25年2月15日	評価結果市町村受理日	平成25年6月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2690700121-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

京都市のメイン通りの国道9号線(五条通り)に面しているが、センター周辺には小学校、公園があり散歩の際は、地域とのふれあいが感じられ、居室から見える天神川沿いの桜並木は絶景と言っても過言ではない。そういった周辺環境を入居者様の満足の為のケアに取り入れていけるように努めている。定期的な運営推進会議を通して町内会、老人会、社会福祉協議会等とも情報共有することで、地域の一員としての馴染みも構築できている。”大丈夫そよ風があるから”と地域の方に安心して頂き、”そよ風で良かった”と入居者に満足して頂けることを目標にしていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは近隣に公園や小学校がある住宅地に位置し、天神川沿いの堤防等、恵まれた地域環境を利用者のケアに積極的に取り入れ、小学校の運動会の見学や町会の行事への参加、また事業所内施設を老人会などの行事に提供しています。自治会はホームや認知症に対する理解が深く、公園にベンチやスロープの設置など、利用者や高齢者が公園を利用しやすいよう整備してもらうなど、地域の一員として受け入れられ良好な関係を築いています。職員はいつも笑顔でその人らしく暮らせるようにとの思いを込め掲げた理念の基、利用者ができることを大切にしながら、調理や片づけ、おやつ作りなどを一緒に楽しみながら、利用者に合った支援に取り組み、笑顔で穏やかにその人らしい暮らしができるよう努め支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で理念を唱和し共有に努めている	法人の理念を基に2年前にスタッフ全員に事業所の理念を応募し、職員の思いを収集して独自の理念を作成し玄関に掲示しています。入職時に理念に込めた思いを伝えたり、スタッフ会議で利用者の支援が理念に添い、一人ひとりに合ったケアが出来ているかを振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内行事、清掃活動への参加を通して交流をしている	町内会に加入し、回覧板や運営推進会議で町内の行事の情報を得て、町内の花見や小学校の運動会に参加しています。日々の散歩で出会った方とは挨拶を交わしたり、近隣の喫茶店や美容室に行っています。事業所の夏祭りやクリスマス会に地域の方の参加があり、町内の敬老会は当該施設で開催される等、交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事にデイルームを開放している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域行事への参加はあるが、サービス向上に活かせるようにつとめている	会議は町内会長、民生委員、老人会代表、地域包括支援センター職員、家族のメンバーで開催し、活動報告を行い、活発な意見交換をしています。会議の中では認知症への質問が多く、グループホームの様子を説明する事でホームや認知症に関する理解が深まり、地域との良好な関係作りに繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じた体制で協力できるように努めている	市担当課との事務手続きや運営推進会議録の提出、申請の手続き等で訪問したり、分からない事を電話で聞く等、協力関係を築いています。市の担当者の参加があるサービス事業者連絡会はテーマによって参加し情報交換をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会への参加、ユニット会議などの話し合いにて意識向上に努めているエレベーター等テンキー等により一部制限している	身体拘束をしないケアの外部研修を受講し、ユニット会議で報告を行い話し合っています。言葉による抑制やロックしているエレベーターの弊害について職員に伝え、職員が理解できるよう話し合っています。利用者に外へ出かけたがたい様子があれば納得が得られるよう一緒に出掛けています。利用者はフロア間を自由に行き来されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を通じて意識付けを実施している		

天神川ケアセンターそよ風 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で学ぶ機会を設けているが充分理解されていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解、納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要に応じて機会を設け意見を反映できるように努めている	運営推進会議の際や面会時は話しやすい雰囲気作りに努め、利用者の様子を伝える中で意見がないかを聞いたり、面会が少ない家族には電話で聞いています。利用者の外出の機会を増やす希望には、会議で話し合い外出の機会を増やしています。家族には毎月写真が載ったお便りを発行し、利用者の事業所での様子を知って貰っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議において意見や提案を聞く機会を設けている	全体会議やユニット会議、個人面談で職員からの意見を聞いています。家族との関わりを増やして行きたいとの意見を受けて、職員間で話し合い家族に参加して貰える行事を増やす等、職員の意見を取り入れ、運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分とは言えないが努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会は提供している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同の研修会や勉強会は参加しているが、十分ではない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の見学入所前の面談を実施している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安無くサービスを利用して頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じたサービスができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	十分とは言えないが支え合えるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の絆を大切に行事などに参加して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	十分ではないが支援に努めている	友人や親戚の方が訪ねて来られた際は居室やリビングでお茶を出し、ゆっくり過ごして貰えるよう配慮しています。外出の際に自宅を見に行ったり、利用者の思いを家族に伝え、墓参りや法事に行かれる際は、出掛ける準備を手伝い、スムーズな外出に繋がるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士で買い物、食事、入浴等楽しんでおられる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	制限なく支援できるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本位の希望、意向を把握するよう努めている	契約時に自宅を訪問して部屋を見せて貰ったり、本人や家族の意向や生活の状況など、聴いた内容を職員間で共有し、思いの把握に繋げています。把握の困難な方は、日々の生活で様子や表情を見ながら思いが汲み取れるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との会話や生活歴シートにより情報を得るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やアセスメントにより把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じた話し合いにより現状に即した介護計画を作成するよう努めている	情報を収集したアセスメントや医療情報等を基に全職員が参加するケア会議で話し合い、介護計画を作成しています。担当職員が日々の介護記録を参考に毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎にカンファレンスで具体的な課題について話し合い、介護計画を見直しています。利用者の状況に変化があればカンファレンスの中で再アセスメントを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を認識しつつ介護計画の見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	制限なく必要に応じて検討する		

天神川ケアセンターそよ風 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校や公園への散歩等を通して暮らしを楽しむ様に支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による訪問診療や症状に応じた医療支援に努めている	入居時に今迄のかかりつけ医の継続受診が可能な事を家族や利用者に説明し、受診時は家族が同行しています。緊急時、24時間対応が可能な協力医は2週間毎に往診があり、変わられる方もいます。必要な医療情報は家族にも伝えていきます。皮膚科や歯科、鍼灸も希望により往診があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制での対応ができるように努め情報の共有ができるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じて情報共有し連携がとれている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を基に必要に応じた支援をしている	入居時に指針に基づいて重度化した場合の対応について説明し、家族の意向を聞いています。状態に変化があれば、医師や家族と話し合い、家族の意向を再確認しながらできる範囲内で取り組んでいます。状況や体制が整えば希望に沿って看取りの支援をしたいと考えています。職員は看取りに対する不安はあるものの理解は出来ており、看取りに関する本を用いて学ぶ機会を持っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに基づいた対応や救命講習を行い緊急時の対応ができるように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施により身につけるように努めている	年2回消防署指導の下、昼夜を想定した災害訓練を行い、通報訓練や消火器の使い方、避難誘導などを行っています。地域の災害訓練には職員が参加し、災害に対する意識を高めています。運営推進会議で訓練を知らせていますが、地域への声掛けは行われていない状況です。	運営推進会議で訓練を行うことを伝えていきますので、更に災害時に協力が得られるよう話し合ったり、また近隣の方にも声をかけをしてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分とは言えないが会議や研修会等で話し合う機会を設けている	接遇やプライバシーに関して内外研修で学び、職員全員に伝達し周知しています。利用者は人生の先輩である事を忘れない対応心がけています。職員の気になる言動はその都度管理者や職員同士で注意をしています。トイレや入浴介助の際はプライバシーに配慮し、同性介助をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話を傾聴し自己決定できるように働きかけることに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分ではないが希望に沿った支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り支援に努めている	献立は利用者の好みを聞いて作成し、足りない物やおやつを利用者と一緒に行っています。下ごしらえや盛り付け、下膳等、利用者の出来る事を探し一緒に行っています。おはぎやチョコレートフォンデュなどの手作りおやつを楽しんだり、誕生日はその方の食べたいメニューを提供しています。個々の希望を聞いて寿司等の外食にも行っています。職員も共に食卓に着き一緒に食べながら、和やかな食事時間となる様に支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に対応できるように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて支援している		

天神川ケアセンターそよ風 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握しながら出来る限り自立に向けた支援に努めている	個々の方の排泄リズムに合わせて、利用者の様子を見ながら尿意のサインなどを見逃さないよう個々に合わせた支援をしています。布の下着に変更になった方は蒸れが無くなり、快適に過ごせるようになったり、トイレ誘導を継続する事で排便が習慣づいてきた方もいる等、自立に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、体操、散歩等個々に応じた働きかけに努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いはしていないが決められた時間帯での入浴になっている	入浴は午前から夕方間に利用者の希望により週に2～3回を目安に入ってもらい、毎日入られる利用者もいます。季節の柚子湯や利用者同士が誘い合い一緒に入る方もいます。拒否される方は言葉かけの方法を工夫したり、声をかける職員の交代や入浴日を変更するなど、工夫しながら入ってもらえるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して睡眠がとれるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報を共有し適切な支援ができるように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別外出や個々の楽しみに応じた支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩、買い物等は制限なく支援できている	毎日散歩や買い物に行き、希望があれば寒い時期でも一緒に散歩に出掛けています。天神川沿いの桜は何度も見に行ったり、ドライブでの紅葉狩りやホテルなどに外食に出掛けています。また個別の希望を聞きながら近所の喫茶店やラーメンを食べに行ったり、買い物等の外出も楽しんでもらっています。	

天神川ケアセンターそよ風 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別での買い物等支払い可能な場合は支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限なく支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プランターの設置や季節に応じた作品等で工夫している	リビングは照明の明るさや窓から入る陽射しをカーテンで調節したり、エレベーター内に椅子を置き、利用者が楽に移動ができるよう配慮しています。利用者同士の関係性を配慮してテーブルや椅子の配置を変えたり、畳のコーナーやソファを置きその方に合った過ごし方が出来る様にしてあります。桜や雛祭り等、季節毎の利用者の作品や行事の写真を飾っています。温湿度の管理や空気清浄機を置き、快適に過ごせる配慮もしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	書籍や花瓶用の棚の設置やソファや椅子等を置いて工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の意向を取り入れている	ベッドや筆筒、カーテンは備え付けられ、契約時に使い慣れた品々を持ってきてもらうよう声をかけ、馴染みの筆筒や椅子、三面鏡、大切な仏壇、家族の写真などを持ち込んでもらい、家族と相談しながら一緒に過ごし易いよう配置しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分とは言えないが工夫している		